



保育關係文献解説(五)

愛育研究所員 竹 田 俊 雄

一〇 遊びとレクリエーション

副島 ハマ

「こどもの集團遊び(上・下)」

昭和二十四年 上 BB 6 一二〇頁
下 B 6 一五六頁

片井商會 一五〇圓
一五〇圓

この書は、こどもにとつては生活のすべてである遊びを、保育者がよく知つて、こどもと一しよに遊ぶことができるようにと、主として幼児に適切な集團遊びを多數集録して、それに一々くわしく説明を加えたものである。はじめにまずこどもの遊びと集團遊びの價值について述べ、以下、智能遊び・感覺遊び(以上上巻)・手の遊び・筋肉運動を主とする遊び・鬼ごっこ(以下下巻)の五部に大別し、さらにそれぞれを分類し、細別して、たとえば傳言遊び・椅子とり・花一匁・動物の眞似・目かくし鬼等々、四百種近くの遊びを一つ一つ、それをするに適當な年齢、その遊び方を具體的に説明している。この分類は便宜的であるが、著者多年の經驗が

物をいつていて、殊に幼児を扱う人々がその遊びを指導するために必讀の教養向の本である。

副島 ハマ編

「こどもの楽しい歌遊び」

昭和二十五年 A 5 四三頁

白眉社 一〇〇頁

幼児のための集團遊びの樂譜を集めたもので、人まねごっこ・頭字遊び・でんでん虫・ハンカチ落とし・ロンドン橋等、二十種の集團遊びにつき、曲譜・歌詞・遊び方が挿畫とともに掲げられている。こどもに歌を伴う集團遊びを指導するには大いに役に立つ書である。教養向。

東京都保育研究會遊戲部會編

「たのしいあそび」

昭和二十四年 B 5 七四頁

フレーベル館 一六〇圓

幼児と歌い、遊びつつ、それを導いて行くことを願つて、東京都の保育園の人々が集團遊びを集めたもの。生活あそび整理あそび・感覺あそび・數あそび・競争あそび・社交あそび・郷土あそびの六部門に分ち、お手々を洗いましょう・ひ

らいたひらいた・鼻々遊び・五羽のすずめ・はんかち落し等八十種の遊び（内、郷土あそび十二種は名稱のみ）の遊び方を説明している。この大多數は歌曲によるものであるが、それらは樂譜を掲げ、歌詞を載せ、また遊びの型や姿勢を略圖で示している。眞に幼児のもつリズムになつた遊びが多く、おおむね自然で簡素なのが特色である。教養向。

高橋四郎・松田稔

「ゲームとその導き方」

日本基督教青年會同盟

昭和二十四年 B 6 一一五頁

六〇圓

この書は一般の人々のレクリエーションのためのゲームを解説したもので、一般論として、ゲームの指導・諸集會のプログラムについてまず述べ、次に室内ゲーム（輪になつてするゲーム、組に分れてするゲーム、代表が出て勝負をするゲームその他に分けてある）と戶外ゲーム（ボールを利用するもの、鬼ごっこ、リレーその他）とを約百種掲げて、一々その遊び方を説明している。大人や青年が主であるが、こどもに興味のあるものもある。

額田 年

「ワンハンドレッドゲームズ」

日本社會事業協會

昭和二十四年 B 6 一五二頁

七〇圓

この書も青少年を主な對象として書かれたゲームの本である。ゲームとその指導についてはじめに述べ、室内ゲームとして、テーブルゲーム（かみなり遊び等十五種）およびロビゲーム（脚相撲等四十七種）さらに戶外ゲーム（傳令等二

十二種）、ボールゲーム（球送り等十種）、水上ゲーム（潜水競争等十六種）を、一つ一つその方法を説明し、またゲームの前後に行う振付け童謡と輪唱（五種）を掲げ、附録として「水泳指導に就いて」、「キャンプに就いて」の二章がある。幼児にできるものも若干含まれているが、年長のこどものグループを指導するにはよい本である。

YWC A 編

「ゲームと指導」

日本基督教女子青年會

昭和二十二年 A 6 一七七頁

五〇圓

この書も一般の人々のレクリエーションのためのゲームを集めたものであり、第一部指導、第二部ゲームに分けられてい、第一部においては、ゲームの要素、ゲームのリーダー、レクリエーションパーテイ、指導上の注意、ゲームに變化をつける方法、集いの實例色々が説明され、第二部において、動きの多いゲーム、静かなゲームとしておよそ一九〇種のゲームが解説されている。これらの中にも幼児にも興味のものが多いものが相當含まれている。

内山憲尙

「幼児とレクリエーションゲーム集」 低學年

中央評論社

昭和二十四年 B 一六二頁

一五〇頁

幼児や年少の學童を主としたゲームおよそ一〇〇種を集録して、對抗的遊び（尻取り等）、衆多的遊び（とんだとんだ等）、競争的遊び（福笑い等）、智能遊戲（封じ言葉等）、科學遊

び（生活測定等）、傳承遊戲（向うの小母さん等）、捕獲ゲーム（盲目鬼等）、競争ゲーム（色分け競争等）、争鬭ゲーム（尻尾抜き等）、模擬ゲーム（郵便競争等）に分類し、一々の遊びについてその方法や注意を述べている。

垣内芳子編

「こどもとレクリエーション」

社會教育連合會

昭和二十四年 B 6 一六六頁

四〇圖

これはゲームを中心とするこどものレクリエーションの手引き書であつて、吉見靜江氏の「レクリエーションとグループワーク」山高しげり氏の「お母さんとレクリエーション」戸川行男氏の「こどもの遊び」の三つの文をはじめに置いて垣内芳子氏が「レクリエーションの實際」について述べている、垣内氏のものは「ある日のパーティー」の章が中心となつてい、そこに具體的な場面を示して、レクリエーションというものが、どのような形で行われるべきものであるかを説いている。幼児から學童にわたるレクリエーションの問題をきわめて實際的に述べながら、この種の本にありがちな單なる遊びの羅列にとどまらず、基礎的な考え方を教えている。保育者としても讀むべき教養向の書である。

一 兒童文化

松葉重庸

「兒童文化概論」

昭和二十五年 A 5 三二四頁

三五〇圖

巖松堂

この書は兒童文化とはどんなものであるか、またどんなものでなければならぬか、さらにどのようにしたらよいかを兒童文化一般にわたつて説いたもので、概説、兒童生活、兒童讀物、新聞・壁新聞、映畫・幻燈、口演童話、紙芝居、兒童劇、人形芝居、子供會の十章から成り、附録に兒童文化資料として、兒童文化關係の法令、團體、文獻を掲げている。著者は長年にわたつて日夜兒童文化運動に打込んでいられただけに、その得意とする演出技術と克明な調査とが、書中いたるところに光つてゐる。また概説において兒童文化の體系を單に兒童に與える文化に止めず、兒童自身の活動や生活、それらを助長する社會的なものにまで擴げてゐる點は正しい。この書に扱つてゐる範圍はひろく兒童全般にわたつてゐるが、幼兒を保育する者として讀むべき教養向圖書。

東京文理科大學內兒童研究會編

「兒童文化」

金子書房

昭和二十四年 A 5 二六八頁

二三〇圖

この書は「兒童心理叢書」の第六卷で次の六つの論説を含んでいる。

石森延男

兒童文學復興について

倉澤榮吉

童話論

滑川道夫

讀書指導

望月 衛

映畫教育

阪本一郎

ラジオと紙芝居

周郷 博

兒童文化論

それぞれの標題の示すような内容を扱つてい、特に幼児に限らず児童一般を對象として文化の問題を論じているが、保育者の參考となる點も多いであらう。専門向。

滑川 道夫

「こどもの讀書指導」

昭和二十四年 B 6 三五六頁

國土社 二五〇圓

この書は幼児から學童までの讀書指導の問題を取扱つたもので、讀書ということ、讀書指導、讀書指導の實際の三章より成り、第三章が幼児期の讀書指導と兒童期の讀書指導との二部に分れてゐる。幼児期の讀書指導においては、遊びの中の指導、繪本を中心とした指導、これからの讀書指導の問題、繪本のことばの問題が扱われてい、とかく無視されがちな幼児の讀書指導を強調してゐる。専門向。

百田 宗治

「子供の世界」

昭和二十三年 B 6 一三三頁

小峰書店 八〇圓

「新生兒童文化に送ることば」というサブタイトルをもつてい、「子供の世界と大人の世界」、「日本の子供の詩」の二部から成り立つてゐる。第二部は一年から六年までの學童の詩一一七篇を集録したものであるが、第一部は著者の兒童觀や兒童文化運動、兒童文學についての見解を示した論文二十六編が要約的に集載されたものであつて、兒童文化ということを理解する一つのよい資料となる。専門向。

發行所 所在地

片井商會	靜岡市末廣町九六
白眉社	東京都目黒區下目黒二ノ四六八
フレーベル館	東京都千代田區神田神保町二ノ四
日本基督教同盟	東京都千代田區西神田一ノ二
青年會	東京都澁谷區原宿三ノ二六六
日本社會事業協會	東京都千代田區神田駿河臺一ノ八
日本基督教會	東京都港區芝浦二ノ一 三友社ビル内
女子青年會	東京都千代田區神田一ツ橋教育會館内
中央評論社	東京都千代田區神田神保町二ノ二
社會教育連合會	東京都千代田區大塚坂下町一五五
巖松堂	東京都文京區高田豐川町三七
金子書房	東京都文京區高田豐川町三七
國土書社	東京都新宿區四谷舟町六ノ六
小峰書店	

☆

☆

☆